

トラベルコスト法を用いた鞆の浦の観光地としての魅力に関する評価

日本大学 学生員 ○小幡大次郎

日本大学 正会員 伊東 英幸

日本大学 正会員 伊東 孝

1. はじめに

鞆の浦は広島県福山市南部に位置し、古くから瀬戸内海航路の要所として発展し、朝鮮通信使の寄航地にもなり、先進的な瀬戸内の歴史と文化を形成してきた。現在の鞆の浦においても、当時の歴史的な町並みや寺院だけでなく、常夜燈、雁木などの貴重な港湾遺産も現存しており、毎年多くの観光客が訪れる観光地である。

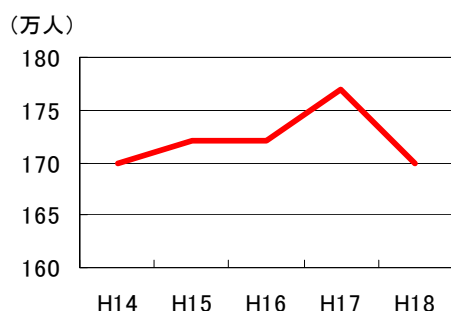
しかしながら、鞆の浦に来訪する観光客の特性や観光資源としての魅力が、どの程度あるのかなどについて詳細に分析した研究は少ない。

そこで本研究では、観光客に対してアンケート調査を実施し、鞆の浦に訪れる観光客の特性を把握するとともに、トラベルコスト法を用いて観光地としての魅力について評価することを目的とする。

2. 鞆の浦の観光地および観光客の推移

鞆の浦の最大の魅力は、その古い町並みであり、幕末から昭和初期の町並みが、広範囲に渡って残っている。観光客が主に訪れる場所は、国重要文化財である太田家、常夜燈、神社等となっている。これ以外にも鞆の浦から連絡船で5分ほどの距離にある仙酔島は、海水浴・温泉・キャンプ等、夏のレジャースポットとして観光客で賑わっている。

一方、鞆の浦の観光客数の推移に関しては毎年170万人以上の観光客が来訪しており、観光地としての魅力は、非常に高いといえる（図－1）。



図－1 鞆の浦の観光客数の推移¹⁾

3. アンケート調査について

平成19年8月10日と11日の2日間に訪れた観光客を対象として、個人属性、目的地、交通費、移動時間、宿泊費、訪問回数等について面接形式によるアンケート調査を実施した（表－1）。アンケートは、歴史的町並みが残っている主要な観光箇所や鞆港周辺、仙酔島へのフェリー乗り場などで実施し、サンプルが偏らないように配慮した（写真－1）。

4. アンケートの調査結果と現状分析

2日間で得られたデータは1人1サンプルとし、男性96、女性121の合計217サンプルであった。観光客の特性として、次ページに年代別割合（図－2）、同行者数（図－3）、交通手段別割合（図－4）、訪問回数（図－5）の図をそれぞれ掲載した。図－2をみると意外にも、20代の観光客の割合が最も多くみられた。図－3の同行者数では、家族又はカップルで来る割合が多かった。図－4の交通手段別の割合では、最も利用された交通機関は鉄道・バスの42%であった。図－6をみると、今回はじめて来たという観光客がほとんどであった。観光客の特性を

表－1 アンケート項目の主な質問内容

No	質問内容
①	性別・年齢
②	同行者の人数・構成
③	訪問回数・訪問頻度
④	個人旅行orバック旅行
⑤	交通費・移動時間
⑥	滞在費・滞在日数
⑦	鞆の浦に対する意見・感想



写真－1 アンケート調査地点の一例

キーワード 鞆の浦、観光価値、トラベルコスト法

連絡先〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 日本大学理工学部社会交通工学科都市環境計画研究室 TEL 047-469-5572

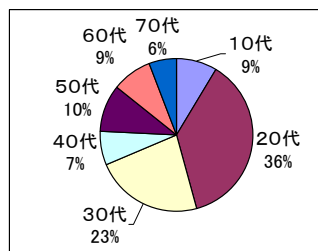


図-2 年代別

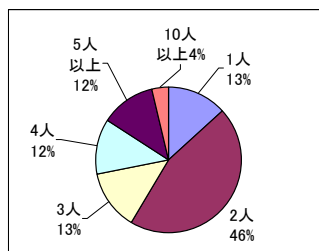


図-3 同行者数

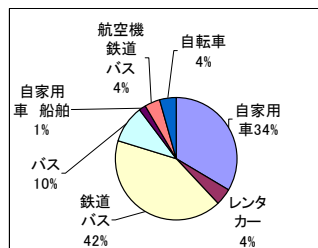


図-4 交通手段別

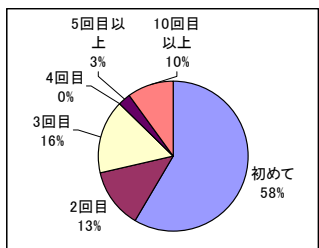


図-5 訪問回数

表-2 将来的な訪問回数と地域別のクロス集計

		217サンプル					
将来的な訪問回数	地域別	中国・四国	近畿	東海	北陸	九州・沖縄	関東
1年に5回			4				8
1年に3回		23	2		4		12
1年に2回		48	13				12
1年に1回			6				2
2年に1回		33	5	6		2	
3年に1回		10					
5年に1回		11					
10年に1回		15					

さらに深く分析するため、将来的な訪問回数と出発地域ではどのような関係があるのかを整理した（表-2）。なお将来的な訪問回数は、アンケートの際に質問した「将来、どのくらいの頻度で来たいか」のデータを使用した。

表-2をみると、鞆の浦に最も近い中国・四国地方は訪問頻度が全体的に最も高い。サンプル数が同程度の近畿地方と関東地方では距離は異なるが、訪問回数は似たような結果となった。

5. トラベルコスト法を用いた評価

「一般化費用」の算出方法に関しては、アンケート調査で観光客に尋ねた交通費用と、所要時間に時間価値を掛けた値とを足し合わせて算出する。また自家用車の場合、ガソリン代などの燃料費も考慮する。走行費用原単位は、平成15年国土交通省が定めた16.35円/台・kmを用いた。高速代金の算出はアンケートで実際に聞き出したデータを利用し、得られなかったデータに関しては、アンケート対象者の出発地域の中心部からの交通費用、距離、所要時間等を基に推計した。時間価値は、平成11年出版の『道路投資の評価に関する指針』から56円/分として算出した。

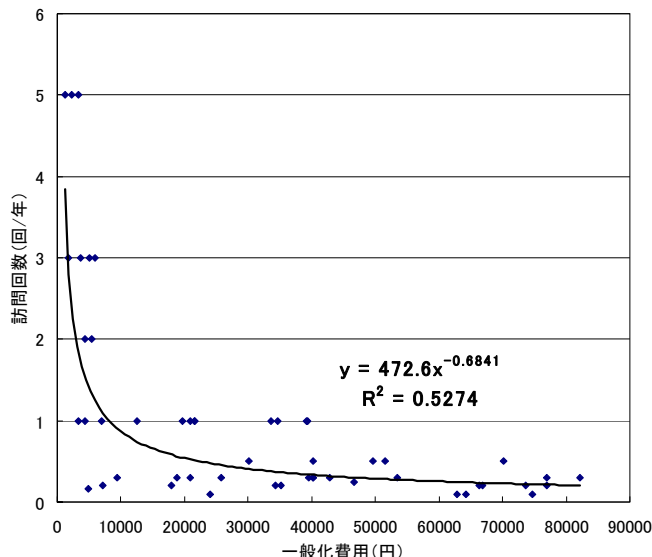


図-6 需要関数

その結果、最小値が1,134円で最大値が82,200円、平均値が31,503円となった。訪問回数は、将来的にどのくらいの頻度で来たいのか、のデータを使用した。

以上より需要関数を推計したが、重相関係数が0.5274とやや相関のある結果となった（図-7）。これは鞆の浦近辺に在住する人と、鞆の浦から遠く離れた場所から訪れる人での一般化費用の大きな差が原因だと思われる。

次に鞆の浦の持つ魅力について評価するために、個人別旅行費の中央値と平成18年度鞆の浦の総観光客数170万人を乗じて評価を行った。

その結果、個人別旅行費の中央値が24,010円であり、鞆の浦の観光地としての価値を推計すると408億1,700万円/年となった。

6. おわりに

鞆の浦の観光地としての魅力は、400億を超える大きな評価額となった。この結果からわかるように、鞆の浦は観光地としての魅力が非常に高い町であるといえる。

今後の課題として、今回、夏にアンケート調査を行ったため、回答者は海水浴の観光客が多くなり、データに偏りがある可能性がある。また現在、埋め立て架橋問題を抱える鞆の浦にとって、景観が変容することによる観光客の意識・行動の変化について分析することは重要といえる。

参考文献

1) 広島県ホームページ:

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/>